


採草地における
メドウフォックステイル
防除対策



平成29年3月
日高地域農業技術支援会議

メドウフォックステイルの特性

メドウフォックステイルは、当地区で通称に「黒穂」とも呼ばれているイネ科の雑草である。近年、日高地方の草地だけではなく内陸や、十勝および根釧地域の太平洋沿岸でも優占する草地が増加して、良質な牧草生産に悪影響を及ぼしている

- ・北海道の太平洋側で侵入が拡大
- ・短い地下茎を有し、極めて早い時期(5月)に出穂
- ・家畜の嗜好性が低く、食べ残される
- ・土中埋没種子と地下茎から再生しており、防除が困難

これまでの対策と新しい対策

平成25年度普及指導参考「メドウフォックステイルの防除技術」から

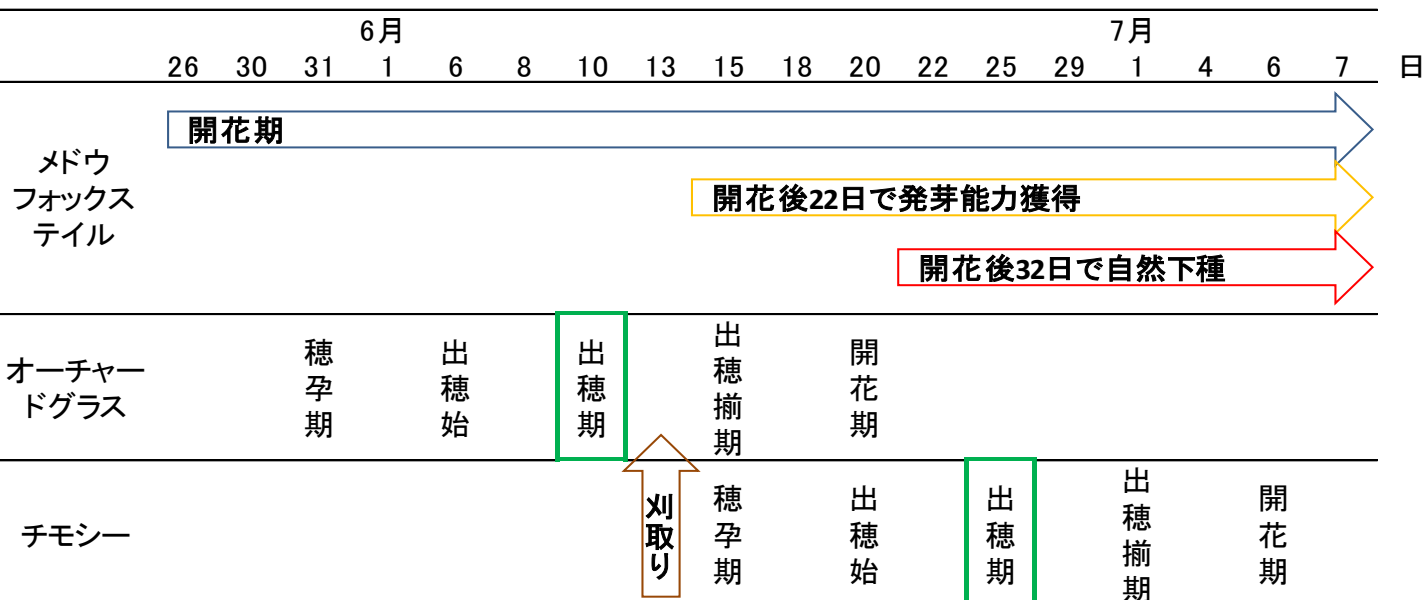
草地更新を行う場合はグリホサート系除草剤で、前年前植生1回および翌年播種床処理2回を行う

※既存草と秋に種子から発芽した草を駆除できるが、越冬させるため、時間とコストがかかる…そこで…

草地更新前の直近の2年以上、メドウフォックステイル種子が発芽能力を持つ前に早期刈り取りを行ったほ場で更新(下表)

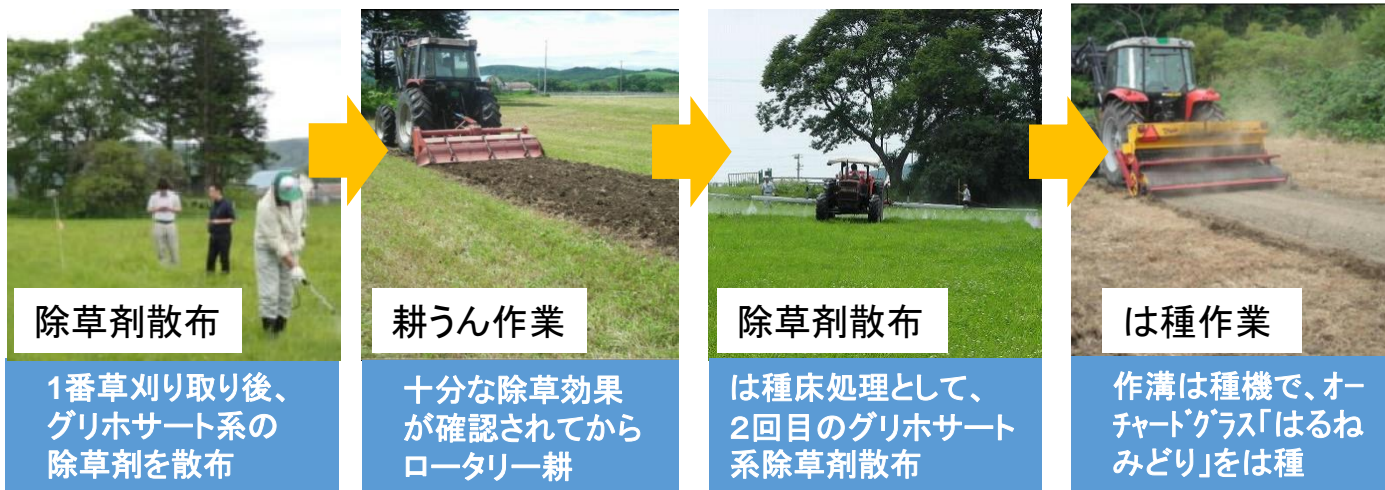


日高地域技術支援会議で実証

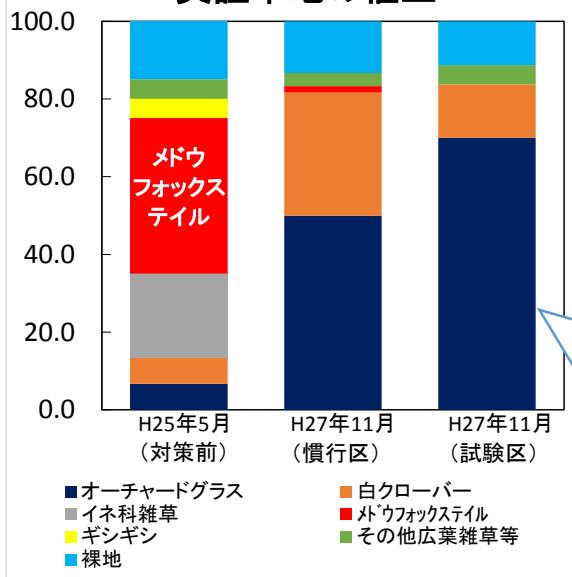


早刈り & 除草剤 2 回散布の実証

草地更新前の2年以上、6月前半までに早刈りを行い、
除草剤2回処理してから、は種する



実証草地の植生



メドウフォックステイルは
駆除され、は種3年目でも侵食
はみられない。

※10aあたり株数

H25春 21,000株

→H28春 試験区: 135株

慣行区: 8,500株

(慣行区 = 除草剤1回、
不耕起は種)

◎効果のポイント

- ・数年間1番草の刈り取りを6月10日以前におこなっており、落下種子が少なかった
- ・刈り取り後および、は種前に除草剤散布することで既存草と種子から発芽した草を駆除できた
- ・耕うん作業により、根からの再生を抑制できた
- ・オーチャードグラスは生育、再生が早く雑草を抑制できた

メドウフォックステイル対策のまとめ


まずは
予防が
重要

I 侵入防止

- 1 他のほ場から侵入させない
ほ場内部に侵入している場合は、刈り取り・収穫残渣が他のほ場に散布されないように作業機械(モアコン等)を掃除する。
- 2 法面や端から侵入させない
メドウフォックステイルが法面やほ場の端に存在するかどうかを確認し、ある場合は作業機械(モアコン等)で、ほ場内部に引き込まないようにする。
- 3 適正な草地管理によって裸地を作らない
適切な施肥、刈り取り、追播等により、裸地(草が無い土の部分)を増やさないようにし、飛散種子による発芽を抑制する。

II 拡大防止

- 1 早期刈り取りを行う
メドウフォックステイル種子が発芽能力を持つ前に早期刈り取りを行う(概ね6月中旬まで)
生育の早さと雑草競合力から、草種はオーチャードグラス(早生品種)とする。

III 駆除対策 (更新)


出来る
もの
を選ぶ

- 1 飼料用とうもろこしを作付する
飼料用とうもろこし(ワンホープ乳剤適用品種)を2年以上作付け飼料し、除草剤ニコスルフロン(ワンホープ乳剤)を用いた茎葉処理を行う。
- 2 前年除草剤1回+翌年除草剤2回
草地更新時にグリホサート系除草剤で、は種前年の前植生を枯らして越冬させ、翌年播種床処理2回(春・夏)を行う。
- 3 早期刈り取り実施ほ場で前植生処理+は種床処理
草地更新前の直近の2年以上、6月上旬までに刈り取りを行ったほ場であれば、土中の種子が少ないため、越冬させずに除草剤2回で駆除できる。

◎留意点

- ・根からの再生があるため、不耕起での駆除は困難。最低限、ロータリーによる表層攪拌が必要。
- ・上記IIIの駆除対策後も、I 侵入防止、II 拡大防止を確実に行う。